

【協働教育推進総合事業：協働教育基盤形成事業】

平成26年度 子育てサポーターリーダーネットワーク研修会実施計画

兼 第2回宮城県家庭教育支援チーム委員研修会

- 1 趣 旨 県が養成した子育てサポーターリーダー同士、また、各教育事務所管内家庭教育担当者、各市町村行政担当者（教育委員会及び保健福祉部局）、協働教育プラットフォーム事業担当者（コーディネーター、家庭教育サポートチーム代表者、派遣社会教育主事等）等とのネットワークを構築することにより、各地域における家庭教育支援活動の充実を図る。
- 2 日 時 第1回 平成26年5月2日（金）午前10時から午後3時まで
第2回 平成27年2月20日（金）午前10時から午後3時まで
- 3 会 場 宮城県自治会館 202・203会議室
- 4 対象者 ・子育てサポーターリーダー ・平成26年度宮城県家庭教育支援チーム委員
・各教育事務所管内家庭教育担当者
・各市町村行政担当者（教育委員会及び保健福祉部局等）
・協働教育プラットフォーム事業担当者（コーディネーター、家庭教育支援チーム代表者、派遣社会教育主事等）等
- 5 内 容 講義・演習・グループワーク・情報交換等
- 6 その他
①参加料は無料とする。ただし、交通費・昼食代等は個人負担とする。
②家庭教育支援に関する情報提供のみに使用することを伝えて承諾を得た参加者の名簿（住所、電話番号）を作成し、居住する市町村及び教育事務所に送付する。

※日程・内容表

	日 程	内 容
第1回 5月2日 (金)	10:00	1 挨拶 生涯学習課 社会教育専門監
	10:05	2 「平成26年度の家庭教育支援施策について」
	10:15	3 各教育事務所管内家庭教育担当者からH26の活動紹介 ・大河原教育事務所 ・仙台教育事務所 ・北部教育事務所 ・栗原地域事務所 ・東部教育事務所 ・登米地域事務所 ・南三陸教育事務所
		4 市町村の取組紹介 ・鹿島台家庭教育支援チーム鹿島台中学校での取組 ・亘理町家庭教育支援チーム亘理小学校での取組
	11:05	
	11:10	
	11:50	5 昼食・休憩
	13:00	6 平成25年度に作成した宮城県版『親の学びのプログラム』モデル実践の紹介 ・名取市子育て応援団ひよこによる名取市立みどり台中学校での取組 ※一部演習も行う。
13:50		
14:00	7 情報交換	
14:50	8 閉会の挨拶 生涯学習課 社会教育推進班 班長	
第2回 2月20日 (金)	10:00	1 挨拶 生涯学習課 社会教育専門監
	10:30	2 【基調講演】「いのちに向き合い、あなたに寄り添う」～今、自分にできること～講師 内田 美智子氏（助産師、思春期保健相談士）
	12:00	3 昼食・休憩
	13:00	4 【分科会】 ①子育てサポーターリーダーネットワーク研修会 ・事例発表、活動報告 「各市町村の取組」について 柴田町家庭教育支援チーム ②第2回宮城県家庭教育支援チーム委員研修会 ・活動報告 平成26年度「宮城県家庭教育支援チーム」による白石高等学校出前講座について 他 報告 中保良子氏（親の学びのプログラム作成委員） ・話題提供「各市町村の取組」について（村田町、亘理町他） ・情報交換
	14:00	・家庭教育支援～お父さん偏～ ・情報交換
15:00	4 閉会の挨拶 生涯学習課 終了 解散	

鹿島台家庭教育推進協議会 ～大崎市鹿島台家庭教育支援チーム まあま～

「生命を考える会」



- <日時> 平成26年3月18日(火) 9:30~12:35(2校時~4校時)
<対象> 大崎市立鹿島台中学校 2年生(107名)
<場所> 会議室(お話、妊婦疑似体験)・被服室(赤ちゃんの抱き方、おむつの替え方・調理室(ミルクの試飲、母乳と飲酒・タバコの害について)

1. 目的 中学2年生に講話と体験活動を通して、「生命の大切さ」を考え、体験する時間を提供する。
2. ねらい (1) 思春期を迎えた生徒たちに、生命の大切さや将来の人間形成に必要な父性・母性を育ませる。
(2) 学校生活の中では経験・体験できないことを、地域や関係機関との連携を取りながら、体験活動を通して深めていき、よりよい学びの方法を探る。
3. 留意点 体験活動がスムーズに行えるよう、笑顔で親しみやすい雰囲気づくりを心掛ける。
4. スタッフ(15名)
県子育てサポーターリーダー・サポーター、保健師、主任児童委員、更生保護女性会、教育委員会担当者

《当日の流れ》

8:30~ 9:30	スタッフ集合・打ち合わせ・準備
9:30~ 9:40	開会式
9:40~ 9:55	「いのちについて」のお話
9:55~10:10	「赤ちゃんの特性」について
10:10~12:10	ワークショップによる体験活動(各40分)
	◎妊婦疑似体験
	◎赤ちゃんの抱き方・おむつの替え方
	◎ミルクの試飲、母乳と飲酒・タバコの害について
12:10~12:25	DVD鑑賞 ~僕が生まれた時のこと~
	感想発表(先生が指名する)
12:25~12:35	閉会式
12:35	終了



《開催までの経緯》

- ・ 協議会として次世代を担う中学生に提供できるものは何か?
- ・ 隣町で、大学と連携して事業を実施しているとの記事が新聞に出ているのを見て、私たちにも出来ないかと考えていた。
- ・ 地域活動支援などで何度か校長先生と会う機会があり、このような経験をさせる機会を実施する予定はないかと話をした。

《私たちの想い》

- 他人の生命を大切に思う心を育むには、まず自分の生命がかけがえのないものであることを知る必要がある。
- 自己肯定感の持てる人に育ってほしい。
- 外部から講師を呼ぶのではなく、支援チームの中で計画・実施は出来ないのか。
- 地域の人たちとの交流を大切にしたい。

《気をつけていること》

- 中学校との綿密な打ち合わせをする。
- 妊婦シュミレーター・人工ミルクの試飲の同意書をもらう。
- 生徒に名札をつけてもらい、体験活動の際必ず名前を呼んであげる。
- 学校側で事前に「いのちについて」の授業をしてもらう（道徳等で）



《今後の課題》

- 年々片親の家庭が増えており、「生まれた日のこと」を家庭でも聞きにくい状況になっている。それに伴い、「いのちについて」の話の中でも話しにくい状況になってきている。
- この事業だけではなく、学校側でも「生命の大切さ」を繰り返し生徒に伝えることが大切である。
- 鹿島台中学校だけでなく、大崎市の各地域でも外部講師によるこのような事業が広がる必要があると考えている。

《参加した生徒の感想》

- 赤ちゃんはデリケートで、妊婦さんも大変だったことが分かった。命もたくさんの人からつながっているから、大切にしていかなければいけないと思った。ちゃんと生き残った命だから大切にしていきたいです。
- 小学校の頃は、ぜんぜん子どもが欲しいとは思っていなかったけど、親が苦労して自分達を生んで育ててくれた事を改めて知れたし、お世話(?)の仕方なども分かったので、将来は親と同じように、子どもを育てたいなあと思えた。
- 3億分の1の確率で生まれてきた私たちが今ここで出会ったことは“奇跡”だと思うので、友達を大切にしようと改めて思いました。
日頃、親に素直になれなくて反抗もしてしまうけど、最後の歌を聞いて、今日親に「ありがとう」と伝えようと思いました。ありがとうございました。
- 赤ちゃんの抱き方や妊婦体験など良い体験が出来たと思います。母乳の話とタバコ・飲酒の害では、へその緒を通して赤ちゃんに害がいてしまう事が分かりました。
妊婦の時だけでなく、普段の生活も気をつけたいと思いました。
- 首がすわっていない赤ちゃんは、扱いがとても難しいと改めて知りました。
粉ミルクはまずいと思っていたけど、意外に味が濃くてまずくなかったことに驚きました。
最後の歌で、親のおかげでここまで成長できたことに感謝したいと思いました。
- 赤ちゃんを抱くには優しくするということが印象に残った他、赤ちゃんがお腹に入っている時の重さやおむつの替え方が分かりました。タバコや飲酒についても何がどう悪いのかが良く分かり、将来タバコは吸わないと決めました。飲酒もひかえるようにしたいです。本当にありがとうございました。
- 妊婦体験では、妊婦さんはとても重くて大変な思いをしているんだということが分かりました。
また、親達は苦労して育ててくれるのだから感謝しないといけないと思いました。
今日、このような普段できない体験ができて本当に良かったです。

かかわり方を考えよう —子どものケンカに親が出る?—

裕太くんは
小学一年生。毎日元気に学校
に出かけ、友達もいて安心
していました。ところがある日、
仲の良い俊夫君に下敷きを折
られたと…。
あなたが親ならどう
しますか？

親の学びのプログラム意見集

平成26年度柴田町新入学子育て親育ち講座「かかわり方を考えよう—子どものケンカに親が出る?—」の実施において、多数の保護者の皆様にご参加いただき、貴重なご意見をいただくことができました。

子どもの泣いている様子に心配しながらも、常に子どもの話をよく聞きながら対応しようとしている姿勢や、子どもが自分で解決できるようにサポートすることで子どもの自立を意識しながら子育てをしている保護者の方が多くみられ、子どもに対する愛情の深さを感じました。各グループ内で出た意見を以下にまとめました。ご家族でお話される機会があればお役立て下さい。



裕太くんの気持ち

- 悲しい
- ショック
- くやしい
- いやな気持ち
- 明日学校に行きたくない
- 怒れなかった
- どうしていいかわからない
- 仲直りしたい
- 気持ちが落ち着くまで話を聞いてほしい
- 俊夫君をかばいたい
- もう俊夫君と遊びたくない



お母さんの気持ち

- 原因は？理由は何だろう？
- 両方の話を聞かないと
- 遊んでいてなったんだろう
- 下敷きくらいならいいかな
- そっとしておく方がいい
- いじめだったら怖い
- 相手に何かしたのかな
- 不安、心配、驚き
- 折られてかわいそうに
- ケガがなくて良かった
- 俊夫君の話を聞きたい
- 正直に話してほしい
- 相手の親や先生は知っているのだろうか
- 二人の関係が悪くなってしまうのではないだろうか

俊夫くんの気持ち

- 悲しい
- ショック
- ごめんなさい
- あやまりたいのにあやまれない
- どうしよう
- 裕太君が悪いんだよ
- 悪気はなかったのに
- やり過ぎた
- 罪悪感
- どうやって仲直りしたらいい



俊夫くんの親の気持ち

- 原因や理由を知りたい
- 裕太君に話を聞きたい
- 裕太君がけがをしていないだろうか
- 壊したことは申し訳ないの謝りに行く
- 理由は別に相手の物を壊したのは悪いことだと言う
- 子どもにはよくあることだ
- 素直な気持ちで話を聞く
- 子ども同士にまかせ
- 申し訳ない
- 俊夫に言葉にできないイライラがあったのか
- 俊夫の心が心配
- 先生に聞く

裕太くんのお母さんだったらどうする？

- ア 裕太くんとの話で収める 20グループ
- エ 担任の先生に連絡する 18グループ
- イ お父さんに相談する 14グループ
- オ 周りの保護者に相談する 5グループ
- ウ 俊夫君の家に電話する 4グループ (複数回答)
- まず子どもの話をじっくり聞き原因(下敷きを折る前に何があったか)をさぐる
- 裕太君本人が今後どうしたいのか確認する
- まずは本人同士で話をして何が悪かったのかを考えさせ、相手の気持ちを思いやる
- 誰にも言わないと約束したのでしばらく様子を見る
- 子どもを信じたいけど正確な内容とは限らないから先生に聞いてみる
- 学校での二人の様子を先生に聞き、トラブルがあったことを伝える
- 担任の先生から二人に話を聞いてもらう
- 担任の先生に二人の間に入ってもらう
- その場にいた友達に話を聞く
- 親同士が仲良ければ直接電話する
- よく我慢したねとほめる
- 1回なら家庭で収めるが、何回も続くようなら担任の先生に相談する
- 子どもの心に気づいてあげられるか心配



その後の対処や展開を考えてみよう

【対処】

- 仲直りできるように二人で話すように促し、話し方や解決方法をアドバイスする
- 裕太君が悪かったら俊夫君に謝らせ大事にせず、明日は「おはよう」と声がけするようにアドバイスする
- 解決だけを目指にしないで時間をかけて見守る
- どちらかの家に行って顔を合わせて話を聞いてみる
- 相手の立場に立って考えさせる、冷静になってから自分がどうしたいかを子どもに考えさせる
- 子ども同士で解決させる、親は出ない
- 様子を見て続くようなら先生の協力をお願いする
- 新しい下敷きを買ってあげる
- 裕太君から遊びに誘って仲直りする
- 親がルールを教えた上で担任の先生とも連携が必要、先生に丸投げはダメ
- 裕太君が自分で対処できるよう見守る
- 友達との関わり方を家庭でも教えたり親が見本になる行動をとる

【展開】

- お互いに悪かったことを認め合い謝る
- 相手の気持ちを思いやることを学ぶ
- 今まで通り仲良くする
- 自分の気持ちを相手に伝え、お互いが納得する





宮城県版 親の学びのプログラム

親のみちしるべ

宮城県では、家庭教育支援の社会的課題（孤独な子育て、虐待や放任、しつけ等）と東日本大震災後、大きな喪失感と困難な状況の中でストレスに悩み苦しむ保護者の心のケアや安心の回復に対応するため、平成24年度に『親のみちしるべ』を作成しました。

平成25年度は、これに加え、新たに思春期の子どもをもつ親対象のプログラムや、将来親になる10代の子どもたち対象の、命の誕生とその命をつないでいく大切さを学ぶプログラムを作成しました。

地域で子育てを支えていこうという、子育てサポーターの皆さんの力を結集して、県内の様々な場所で出前講座を実施しています。

今年度、柴田町の「子育て親育ち講座」でも新入学児童の保護者の皆様を対象に「親の学びのプログラム」を実施しました。この講座のねらいや参加して下さった保護者の方々の考え方、アンケートの意見を以下にまとめました。

ねらい

- ① 入学に伴う保護者の様々な不安を軽減
- ② 子どもの成長に伴う環境・身体の変化に対応し支えていくためのヒントを提供する新環境へのソフトランディングを支援
- ③ 子育てについて自ら考え、親自身が学びや気づきを深める機会をもち、保護者同士のコミュニケーション向上を図る

グループワークが進む中での意見の変化

親の対処で自己満足していないか、子どもの成長にとって親として何かサポートできないだろうか



子どもにとって必要なのは自分で解決する力、自分で考えさせること、親がそれを引き出すことでは？



自立への成長過程にある児童期の子どもを理解し、親子のコミュニケーションを密にし子ども自身の力を引き出していく

アンケートの結果より (回答者292名)

- ・大変良かった・良かったの意見が95%を占めた
- ・今後も参加したいという意見が73%を占めた
- ・希望する講座のテーマは6割以上が「子どもの心理や性格形成、しつけ方」
- ・9割の親が子どものしつけで悩んだことがあり、そのほとんどが学習することが必要だと答えている
- ・学習ツールとしては両親や子育て経験者からのアドバイスとともに家庭教育講座・講演会などがあげられた
- ・家庭教育への要望としては、講座・講演の充実や子育てに関する学習資料の作成・配布を希望する声が多かった



親同士が交流し、家庭教育について学習したり、アドバイスを受ける機会を望んでいる親がたくさんいる現状が浮き彫りになった

実施後のアンケートの感想より抜粋

親同士で話すことはとても良い機会になり安心感を得られた

他の方の様々な意見を聞くことができ参考になった
自分では気づかなかった点や考えが聞けて良かった

子ども・親の立場を客観的に見ることができた
子ども自身に考えさせることが大事だと気づいた

これからの小学校生活で起こりうる身近なケースをじっくり考える時間を持てて良かった、不安が少し解消できた

北風と太陽

子育てには北風も吹くし、太陽も輝きます！
親として、太陽になり、時には北風になることも必要
これからの皆さんの素晴らしい子育てにエールを送ります！

